

都城市山之口地区  
(旧北諸県郡山之口町)  
遺跡詳細分布調査報告書



2009年3月

宮崎県都城市教育委員会

表紙写真：50年代前半の花木周辺のようす（山之口地区公民館所蔵）

## 序 文

平成 18 年 1 月に旧北諸県郡の山之口町、高城町、山田町、高崎町が旧都城市と合併して、新都城市が誕生しました。

国の重要無形民俗文化財である山之口麓文弥節人形淨瑠璃や宮崎県指定無形民俗文化財である山之口弥五郎どん祭りが保存・伝承されている旧山之口町におきましては、古くより数多くの遺跡が所在することが知られ、いくつかの遺跡が発掘調査されたこともありましたが、これまで、町域全体にわたる正式な遺跡詳細分布調査が実施されたことはありませんでした。

そこで今回、都城市教育委員会では市町村合併を機に、国・県の補助を受けて山之口地区内の悉皆調査を実施し、その成果を遺跡詳細分布調査報告書として刊行することにしました。

今回の調査の結果、133 箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認することができましたが、埋蔵文化財はその性格上、地表観察による遺跡の把握には限界がありますので、今後も追加・訂正を期さなければなりません。

最後になりましたが、現地踏査及び報告書の作成に際しましては、数多くの山之口区民の皆様や、関係機関の方々から多くの情報の提供と多大なる御協力を得ることができました。区民の皆様をはじめ関係機関に対し、心から感謝申し上げます。また、今後とも文化財保護行政の充実に御理解御協力いただきますよう、重ねてお願ひ申し上げます。

平成 21 年 3 月

都城市教育委員会 教育長 玉利 譲

## 例 言

1. 本書は、都城市教育委員会が平成 20 年度に、国・県の補助を受けて作成した都城市山之口地区遺跡詳細分布調査報告書です。
2. 本書に添付した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 2 万 5 千分の 1 国土基本図を複製したもので。(承認番号 平 20 九複、第 99 号)
3. 一覧で掲載された遺跡は、すべて文化財保護法による「周知の埋蔵文化財包蔵地」になります。
4. 「周知の埋蔵文化財包蔵地」において、土木工事等を実施しようとする場合には、文化財保護法により、発掘（工事）に着手しようとする前まで諸手続きが必要となります。詳細については、11 に示した都城市教育委員会文化財課の連絡先まで御照会ください。
5. 埋蔵文化財は地下に埋もれている性格上、地表面観察による範囲確認には限界があるので、今回示した範囲外にも存在する可能性があります。今後、補正・追加・削除等が行われる場合があります。
6. 遺跡名の基本となる小字と読みは『都城地方法務局高城登記所の字の一覧表』(平成 13 年 1 月 31 日) によりました。
7. 遺跡番号には山之口地区の略記号である「YK」を冠して整理しました。
8. 遺跡立地の地形区分は、基本的に宮崎県土地分類基本調査によりましたが、一部、氾濫原（沖積低地）として括された地形面については、その中の微高地を沖積段丘として取り扱いました。
9. 本書の執筆は都城市文化財課柴畠光博と中村友裕が共同して行い、編集は柴畠が行いました。
10. 今回の踏査による採集遺物（個人蔵以外）や記録類は都城市教育委員会で保管しています。
11. 本書及び埋蔵文化財に関するお問い合わせは、都城市教育委員会文化財課（〒885-0034 宮崎県都城市菖蒲原町 19-1 都城市役所菖蒲原別館 電話 0986-23-9547）へお願いします。

## 本 文 目 次

第 1 章 調査対象地の地形と地質	1
第 2 章 調査体制と方法	1
第 1 節 調査体制	1
第 2 節 調査方法	2
第 3 章 調査概要	2
表 都城市山之口地区埋蔵文化財包蔵地 地名表	8 ~ 11
第 4 章 関連文献目録	12

## 挿 図 目 次

図 1 県指定山之口村古墳の位置図	4
図 2 県指定山之口村古墳 1・2 号墳墳丘測量図	4
図 3 採集遺物実測図（縄文土器と弥生土器）	5
図 4 採集遺物実測図（石器と古墳時代の土器）	6
図 5 採取遺物実測図（古代・中世・近世の土器と陶磁器）	7
附図 都城市山之口地区遺跡詳細分布図（2 万 5 千分の 1）	

## 写 真 目 次

写真 1 主な遺跡の現況写真	13
写真 2 主な採集遺物の写真	14

## 第1章 調査対象地の地形と地質

都城市山之口地区（現在の都城市山之口町、旧北諸県郡山之口町）は宮崎県の西南部、都城盆地の北東部に位置し、東は宮崎市田野町、南は北諸県郡三股町、西から北は都城市高城町、北は宮崎市高岡町と接している。地区のほぼ中央を斜めに横切るように、JR日豊本線が走行し、その南方を国道269号線が走り、それと並行するように九州縦貫自動車道宮崎線が通っている。東西約9km、南北約17kmの細長い範囲で、総面積は約97.5km<sup>2</sup>、地区的約80%は国有林を中心とする林野となっている。

都城盆地は、東半部に東岳・柳岳を主峰とする山地、西には瓶台山・白鹿岳の山地と北西に高千穂峰をはじめとする霧島火山群があり、東と西を山地に囲まれた広大な地溝状の凹地を呈している。本地域の地形は東縁山地と盆地地の大く2つに区分される。東縁山地は起伏量・谷密度・傾斜度から、東岳・柳岳山地（鶴塚山・小松山・東岳・柳岳・牛嶺）と青井岳・大谷山地に区分されるが、後者の起伏量は小さく、西縁は山麓地帯を呈して、盆地底に孤立丘陵を点在させており、山之口地区にはそのような孤立丘陵を数多く見ることができる。ちなみに、山地を作る固結堆積物である四万十累層群は、下位の黒色頁岩優勢な地層である山之口層群と上位の砂岩優勢な地層である中郷層群に大別できる。東縁山地から流れ出る河川は、青井岳溪谷を経由して宮崎市田野町との境界付近を北流する境川、下流は有水川となる永野川、地区の中南部を流れる東岳川・花木川・富吉川・櫛口川などがある。後者の河川は山地を刻む谷沿いに河岸段丘を残すと同時に山地の出口から西及び北に向かって、現在は開析されている広大な扇状地（開析扇状地）を形成している。

テフラについては、平成19年度に試掘調査し、平成20年度に本調査を実施した萩ヶ久保第1遺跡(YK34)において、上位から桜島文明軽石（15世紀後半）、霧島御池軽石（<sup>14</sup>C年代：約4200年前）、鬼界アカホヤ火山灰（<sup>14</sup>C年代：約6300年前）、桜島11テフラ（<sup>14</sup>C年代：約7500年前）、桜島薩摩テフラ（<sup>14</sup>C年代：約11000年前）を確認している。新聞遺跡(YK22)や二本杉遺跡(YK39)では、切り通し断面に霧島御池軽石と鬼界アカホヤ火山灰が確認でき、後者では、鬼界アカホヤ火山灰の下位に桜島11テフラの軽石濃集層が認められ、その下位から縄文時代早期後葉の土器片が露出している。これらのテフラは都城盆地の他の地域と同様、発掘調査の際の鍵層として有効である。今後は、シラス（入戸火碎流）の堆積を免れた山地帯において、より古いテフラ群の検出が期待される。

## 第2章 調査体制と方法

### 第1節 調査体制

調査体制は下記のとおりである。

調査主体 都城市教育委員会

教育長 玉利 譲

調査事務局 同 文化財課長 和田芳律

文化財課副課長 常盤公生

文化財課主幹 矢部喜多夫

調査担当 同 文化財課副主幹 乘畑光博

文化財課主事 栗山葉子

文化財課嘱託 下田代清海 中村友昭

庶務 文化財課嘱託 斎藤麗子

踏査・整理作業員 大盛祐子 外山亜紀子 中川みな子 奥登根子 新屋美佳 水元美紀子

水光弘子 尾曲真紀 児玉信子 吉留優子

調査協力者 山下博明（南九州文化研究会会長） 山下ひとみ

## 第2節 調査方法

現地踏査を始める前に、山之口町総合支所の教育課より、山之口町内在住の山下博明氏（南九州文化研究会会長）が町内における遺跡の分布状況をある程度把握しているという情報を得ていたので、踏査開始直後に同氏を訪ねて情報収集をはかった。氏は御夫妻で昭和50年代から町内の数箇所の遺跡を隨時踏査されており、その際に採集した多量の遺物を青井岳の無頃子にある倉庫に保管されていた。今回の調査では、その遺物についても、採集地点ごとに整理して、注記することとした。また、山之口地区公民館2階の民俗資料室に展示されていた町内出土遺物もこの機会に整理して、出土地点の再確認を行って、遺跡詳細分布図に反映させることとした。

今回の現地踏査による遺物の採集に際しては、旧山之口町内を富吉、花木、山之口の3つの大字で区切り、さらに大字山之口については、麓、永野、青井岳の3つの地域に細分して、遺物採集地点を地域ごとに整理番号を付して登録していった。調査時は、旧山之口町が作成した管内図（地形図）コピーと山之口町商工会が発行した住宅地図を持ち歩いて、調査員と作業員数名で田畠を中心に遺物の採集を行い、採集した地点を地図に記入していく。山林については、一部の林道の切り通しにおいて、地層断面観察を実施したが、全城を網羅することは不可能であった。採集した遺物は整理番号と採集日を記入した荷札とともにビニール袋に入れて持ち帰り、洗浄・選別・注記・台帳記載を行った。また、それと並行して、山之口地区公民館（旧山之口町中央公民館）が保管していた管内出土品と地区住民の所蔵遺物を調査して出土地点の洗い出しを行い、これらを総合して遺跡調査カードに反映させることとした。

なお、踏査着手前の平成20年4月25日には、山之口地区自治公民館長会において今回の調査に関する説明を行い、回覧板でチラシを各戸に配布したり、地区内の小中学校に情報提供を依頼したりして、調査に対する理解と協力を呼びかけるとともに、情報収集にも努めた。踏査時においては、できるだけ住民の方々に声をかけ、調査への理解を求めるとともに、聞き取り調査も行い、周辺の以前の地形状況や過去に出土品があったかどうかなどを確認した。

## 第3章 調査概要

埋蔵文化財包蔵地区域である遺跡の範囲については、基本的に今回の踏査による遺物採集地点とこれまでに遺物が採集されていた地点を手がかりとして、城館跡・寺院跡等の地元伝承のある場所も加味しながら検討を進め、米軍による昭和20年代撮影の空中写真と宮崎県による『土地分類基本調査』の地形分類図によって一帯の地形環境等を考慮して推定した。なお、当然ながら、文化庁や宮崎県教育委員会が刊行した既存の報告書等に明記された遺跡についても参考にした。

今回の調査により、旧高城町との境界に所在し、山之口地区側へ範囲が拡大して遺跡範囲の変更を要する必要のある既知の5箇所の遺跡（高城町1019：土角遺跡・同町1021：大原第2遺跡・同町2007：横松遺跡・同町2009：佐土原大道遺跡・同町2010：二本松遺跡）を除くと、あらためて、128箇所の遺跡を確認することができた（総数133遺跡）。当然ながら時代の複合する遺跡が大半を占めるが、時代を縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代（奈良・平安時代）、中世、近世という具合に大別して、採集した遺物の時期が判別できた遺跡の数を大字ごとに累計すると、下記の内訳のとおりとなった。

地区・大字	縄文時代	弥生時代	古墳時代	古代（奈良・平安）	中世	近世
富吉（51遺跡）	21	29	8	24	32	44
花木（30遺跡）	11	12	1	11	17	15
山之口（52遺跡）	21	10	1	15	24	40
合計（133遺跡）	53	51	10	50	73	99

この数字を一瞥すると、近世の遺物が採集された遺跡が圧倒的多数を占め、反対に古墳時代の遺跡が極端に少ないことがわかる。また、縄文時代、弥生時代、古代の遺跡がほぼ同数で、中世の遺跡がそれ

らよりやや多い。今回の調査が表面採集だけによるので、この結果が実態を示しているものでないことは言うまでもないが、地区別の時代の比率をみると、大字富吉における弥生・古墳・古代・中世の各時代遺跡の割合が高いことは注目される。

縄文時代の遺跡は、山下博明氏によって、県指定山之口村古墳6～10号墳（川内古墳とも呼ばれている）のあったとされる脇之田第2遺跡（YK66）や山之口城跡（YK110）において、まとまった遺物が採集されていた（図3）。前者では曾畠式土器を中心とする縄文時代前期の良好な資料が、後者では縄文時代早期と後期の上器群が認められる。都城盆地においては一般的に縄文時代早期の遺物はより上位に堆積するテフラによって厚く覆われているために、現地表面に露出している可能性は低い。しかしながら、新開遺跡（YK22）や二本杉遺跡（YK39）のように、切り通しの七層断面において、鬼界アカホヤ火山灰下位から上器片を採集することができた遺跡があるほか、平成19年度の試掘調査によってその存在が明らかとなった森ヶ久保第1遺跡（YK34）のように、通常は表面的な踏査が不可能である山地帯の低丘陵上には縄文時代早期をはじめ前・中期の遺跡も存在する可能性が高い。今後、舌状台地端部や丘陵の先端部における開発の際には注意が必要である。今回の踏査で七器型式の同定が可能な事例としては、的野遺跡（YK37）、中間遺跡（YK80）、田原遺跡（YK83）等で縄文時代後期後半の中岳II式土器のまとまった資料が確認された。特に田原遺跡では多量の土器片を採集できたほか、磨製石斧等の石器も散布していた。

弥生時代の遺物としては、既存の採集資料により、峯元第1遺跡（YK72）内で出土したとされる磨製石剣、八幡領遺跡（YK69）やオケ野遺跡（YK113）では完形の土器が出上している（図3・4）。今回の踏査では、段丘化した開析扇状地の縁辺部において遺物の散布が認められた。例えば、中間遺跡（YK80）では、弥生時代中期の土器片だけでなく、磨製石鎌等の石器の素材となる剥片が多数散布していた。また、山頂に熊野神社の所在する木上遺跡（YK14）では弥生時代の上器片が採集され、神社登り口の切り通しにおいて、遺構と思われる落ち込みを確認している。

山之口地区では、昭和11年7月17日に『山之口村古墳』として9基の円墳と1基の地下式横穴墓が宮崎県の指定文化財に登録されている。このうち、7基の円墳は国鉄日豊線開通工事や農業関連事業等により消滅し、昭和59年7月20日に指定文化財から解除されている。現存するのは、大字富吉字後山に所在する山之口村古墳1号墳・2号墳である（図1・2）。1号墳は、直径7.2mで、高さ1.0mをはかる。墳頂平坦ではなく、小山状を呈する円形の墳丘である。最頂部の標高は約171.0mである。2号墳は、1号墳の北東約2.2mに隣接している。直径5.2mで、高さ0.75mをはかる。1号墳と同じく小山状を呈する円形の墳丘である。最頂部の標高は約170.5mをはかる。山之口村古墳1号墳・2号墳以外の古墳の分布をみると、消滅した3号墳が富吉地区にあるほかは、花木地区に集中している（5～10号墳）。このうち5号墳は、図4-38・39の土師器坏身・須恵器坏蓋（陶邑II型式第4段階）出土地点（地下式横穴墓か）に近接しており、両者の関係性を想定できる。また、花木地区では、山之口小学校（YK71：王子山遺跡）および、町総合運動公園において地下式横穴墓が数基検出され、鐵刀子や勾玉が出土したといわれる（山之口町史編さん委員会2005）。この他に周辺住民から、富吉地区にかつて存在した多数の塚の伝承を各所で聞き取ることができた。なお、古墳時代の採集遺物は、富吉川流域とその支流である樋口川流域を中心とした山之口地区南部に集中するもののその数は極端に少ない。

古代（奈良・平安時代）においては、当地区内に日向國府と大隅國府とを結ぶ官道が通り、そのルート沿いに水俣駅が置かれていたのではないかと推定されている。今回の踏査では、大字富吉に所在し、從来から平安時代の官衙跡を含む拠点的な遺跡ではないかと言われている、通称「新町原」の後山遺跡（YK40）一帯において、平安時代の土師器や須恵器が多數散布していた。山下博明氏の採集資料の中には縁釉陶器の破片も含まれており、この遺跡一帯が古代において特別な場所であったことがうかがえる。このことは中世において都城島津氏が重視した的野正八幡宮が隣接していることと無関係ではないと考えられる。参考までに奈良・平安時代の布痕土器（圓形埴生産用の焼埴土器）の採集状況をみると、



図1 山之口村古墳1~4号墳位置図



図2 県指定山之口村古墳1・2号墳墳丘測量図

富吉6遺跡(YK30・37・40・42・43・47)、花木5遺跡(YK51・52・56・64・69)、山之口6遺跡(YK83・89・93・95・96・117)である。また、東岳川上流の山間部において、古代の遺物が採集できる遺跡があり(YK114: 小椎ヶ野遺跡・YK117: 上長野第1遺跡など)、青井岳の境川右岸の天神河内第1遺跡(宮崎市田野町)と同様に、古代の交通ルート上の要所に何らかの施設や集落が営まれていたと考えられる。

中世の資料は、山下博明氏により、山之口城跡(YK110)において多量の貿易陶磁器や国産陶器等が採集されていた。また、旧山之口町教育委員会による三保(松尾)城跡(YK58)の発掘

調査(未報告)と宮崎県埋蔵文化財センターによる三保(松尾)城北東曲輪跡(YK54)の発掘調査が実施され、中世城郭内の遺構や遺物が検出されている。三保(松尾)城跡の西側眼下には、肝付兼重に由来する兼重神社があり、その境内には「腹切りどん」と呼ばれている五輪塔があるが、今回の調査では、上記の大字花木一帯よりも、大字富吉の的野神社周辺において、貿易陶磁器が散布している地点が目立ち、先述した古代の遺物分布状況とオーバーラップしている。

近世には、山之口が鹿児島藩本藩の直轄領となり、地頭仮屋が置かれ、その周辺に廻集落が形成されたとされる。今回の調査によって、現在も住宅地である麓一帯には近世の遺物が各所に散布していた(YK90: 山之口麓遺跡)。また中世以降、青井岳天神嶺を地域境(東を山東、西を山西)とする地域区分概念があり、近世にも同所が鹿児島藩と既肥藩という2つの藩の境界に位置づけられたという関係もあり、大字山之口には境目に置かれた番所跡が各所に存在している(YK109: 一之渡遺跡など)。

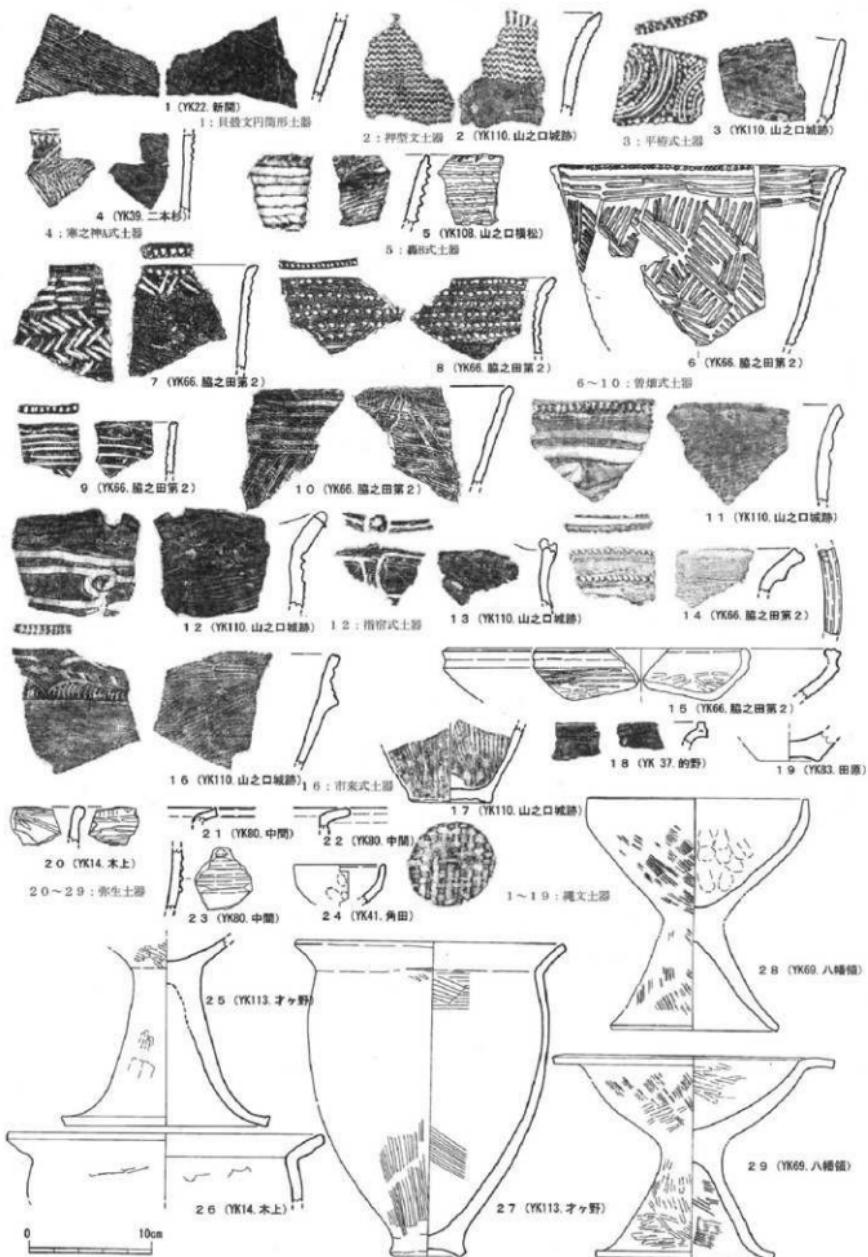


図3 採集遺物実測図（縄文土器と弥生土器）※（ ）内は遺跡番号と遺跡名

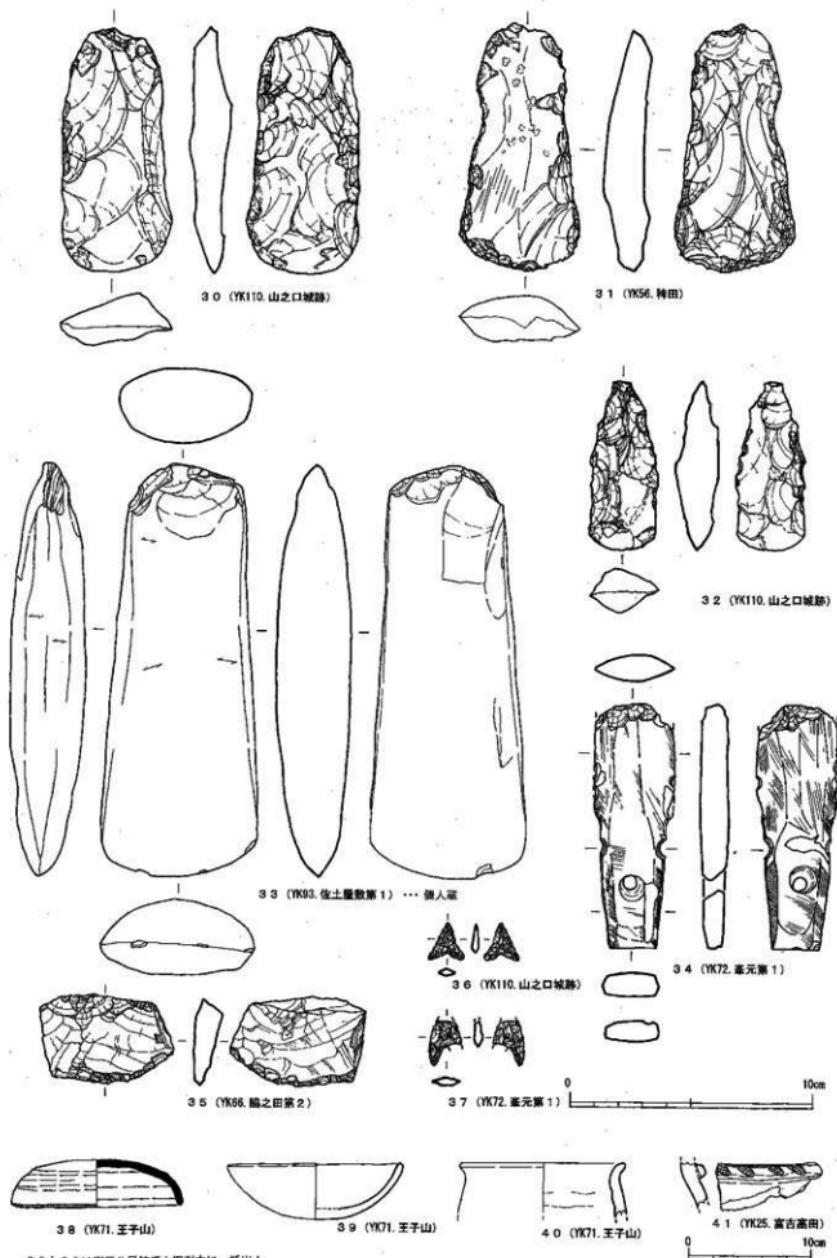


図4 採集遺物実測図（石器と古墳時代の土器）※（）内は遺跡番号と遺跡名

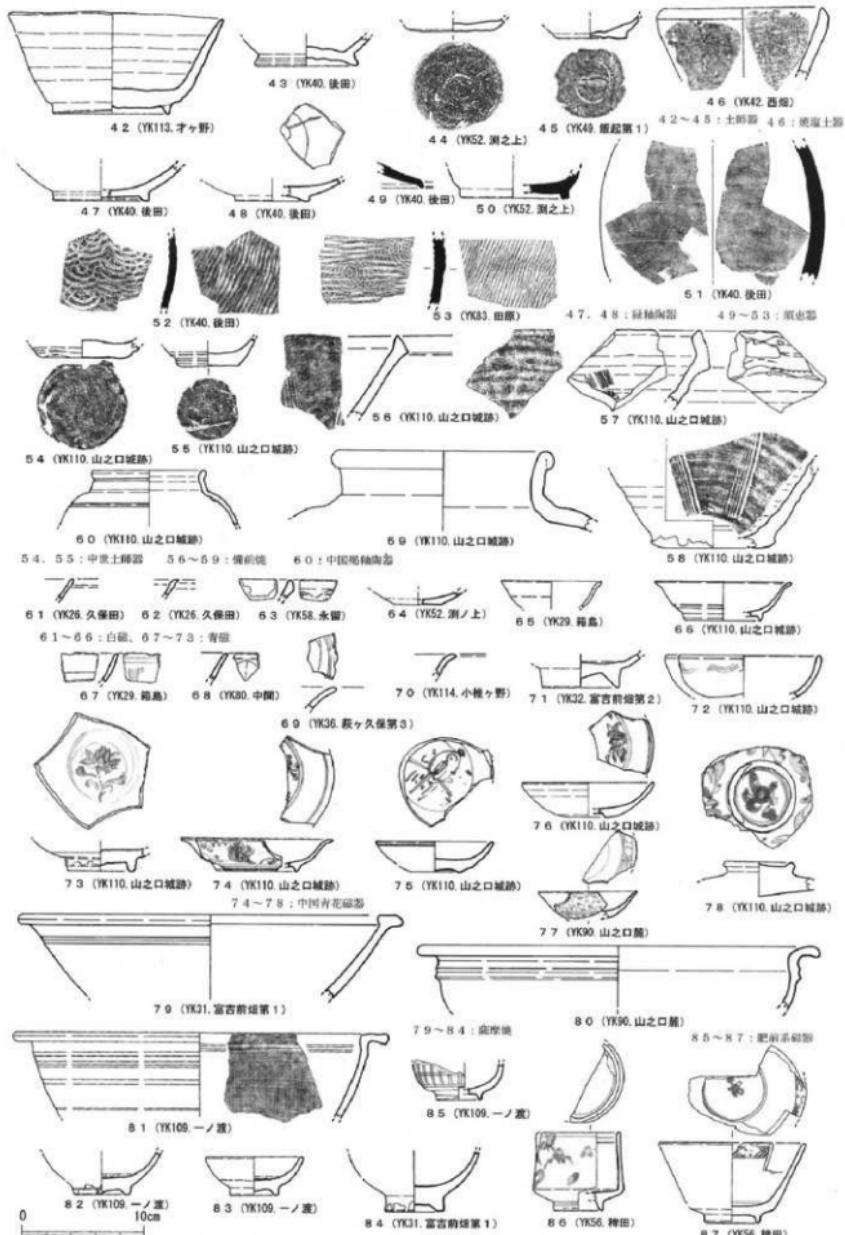


図5 採集遺物実測図（古代・中世・近世の土器と陶磁器）※（ ）内は遺跡番号と遺跡名

表 都城市山之口地区埋蔵文化財包蔵地 地名表 (1)

番号	遺跡名	所在地	種別	立地	時代	文献	備考
YK1	ジンダン 城谷	山之口町人字富古字城谷	城館跡	シラス台地斜面	中世	13,15,39, 40	三股町N37城内遺跡 (桜山城跡)と接続
YK2	トヨシムラシマエ 富吉村前	山之口町大字富吉字村前	散布地	河岸段丘面	近世		
YK3	モリノイ 上別府	山之口町大字富吉字上別府、楠木田、守田	散布地	河岸段丘面	弥生、古墳、古代、中世、近世		
YK4	トヨシマカツラ 富吉片平	山之口町大字富吉字片平、片平下	散布地	河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削削面	縄文、古代、中世、近世		
YK5	シマ 大王	山之口町大字富吉字大王、楠木田	散布地	河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削削面	弥生、中世、近世		
YK6	ナガシマバヘル 中島原	山之口町人字富吉字中島原、大王	散布地	河岸段丘面	縄文、近世		
YK7	アリラダイイチ 相原第1	山之口町大字富吉字相原、中島原	散布地	河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削削面	弥生、近世	13	三股町N34方規遺跡 と接続
YK8	タシマバヘル 田島原	山之口町大字富吉字田島原、中島下	散布地	河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削削面	近世		
YK9	アリラダイイチ 相原第2	山之口町大字富吉字相原	散布地	河岸段丘面	古墳、近世		
YK10	ナカシマシタ 中島下	山之口町大字富吉字中島下、田島原、カラ神	散布地	河岸段丘面	弥生、中世、近世		
YK11	タシマ 出島	山之口町大字富吉字田島原、木上原、相原	散布地	河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削削面	弥生、古代、近世	13	三股町N21木ノ上遺跡と接続
YK12	キウシマタシイチ 木上原第1	山之口町大字富吉字木上原、木上	散布地	河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削削面	近世		
YK13	キウシマタシイチ 木上原第2	山之口町大字富吉字木上原、前川	散布地	河岸段丘面	中世、近世		
YK14	キウシマ 木上	山之口町大字富吉字木上原、前川	散布地	丘陵地II	弥生、古代、中世、近世	15,22	頂上に熊野神社あり
YK15	キミツダ 上原田	山之口町大字富吉字上原田、木上、前原田	散布地	河岸段丘面、開拓扇状地面	弥生、中世、近世		
YK16	ナカシマ 中原田	山之口町人字富吉字中原田、上原田	散布地	開拓扇状地面	弥生、中世、近世		
YK17	ナラダ 成枝	山之口町大字富吉字成枝	散布地	河岸段丘面、冲積段丘面	古代		
YK18	ナラモト 元八	山之口町大字富吉字岩原、元別府原	散布地	河岸段丘面	近世		
YK19	バンゾ 番田	山之口町大字富吉字番田、岩元、牛ヶ丸	散布地	河岸段丘面	弥生、古墳、中世、近世		
YK20	サンハルダイイチ 山野原第1	山之口町人字富吉字山野原、番田	散布地	河岸段丘面	縄文、弥生、古代、中世、近世		
YK21	サンハルダイイチ 山野原第2	山之口町大字富吉字山野原	散布地	シラス台地面、河岸段丘面	縄文、弥生、古代、中世、近世	15,26	東方に瑞應寺跡の伝承地あり
YK22	シヌイ 新開	山之口町大字富吉字新開	集落跡	シラス台地面	縄文		
YK23	ナラクシマツアツ 七瀬城跡	山之口町大字富吉字新開、寺ヶ迫	城館跡	丘陵地II、シラス台地面	中世	29,40	
YK24	ナラクサツ 寺ヶ迫	山之口町大字富吉字寺ヶ迫	散布地	河岸段丘面	古代、近世		
YK25	トヨシタカギ 豊古高田	山之口町大字富吉字高田、久保田、番田、久川	散布地	河岸段丘面	縄文、古墳、近世		
YK26	タガタ 久保田	山之口町人字富吉字久保田	散布地	冲積段丘面	縄文、弥生、古代、中世、近世		
YK27	イエンビコウ 今別府	山之口町大字富吉字今別府、櫛口	散布地	冲積段丘面	縄文、弥生、古代、中世、近世		
YK28	ヨカヒ 弁篴	山之口町大字富吉字斧篴	散布地	河岸段丘面	縄文、弥生、近世		
YK29	ハシマ 箱島	山之口町大字富吉字箱島、城園、下王子原、上干、壬ノ原	散布地	河岸段丘面	縄文、弥生、古代、中世、近世		
YK30	シヨンソウ 城園	山之口町大字富吉字城園、下王子原	散布地	河岸段丘面	縄文、弥生、古代、中世、近世		
YK31	トヨシマタシイチ 富吉前畑第1	山之口町大字富吉字前畑	城館跡、散布地	河岸段丘面、丘陵地II	弥生、古墳、古代、中世、近世	30	尼ヶ城跡あり

表 都城市山之口地区埋蔵文化財包蔵地 地名表 (2)

番号	遺跡名	所在地	種別	立地	時代	文献	備考
YK32	ミヤシマヘダガニ 富吉前畠第2	山之口町大字富吉字前 畠、城廻、西焼	散布地	河岸段丘面	弥生、古墳、古代、中世、近世		
YK33	ミヤシマヘダガニ 上玉子原	山之口町大字富吉字上玉 子原	散布地	河岸段丘面	近世		
YK34	ミヤシマヘダガニ 萩ヶ久保第1	山之口町大字富吉字萩ヶ 久保	集落跡	小起伏山地内 の低丘陵	縄文、中世		平成20年度緊急発掘 調査により消滅
YK35	ミヤシマヘダガニ 萩ヶ久保第2	山之口町大字富吉字萩ヶ 久保	散布地	河岸段丘面	近世		
YK36	ミヤシマヘダガニ 萩ヶ久保第3	山之口町大字富吉字萩ヶ 久保、的野	散布地	河岸段丘面	弥生、古墳、古代、中世、近世		
YK37	ツノ 的野	山之口町大字富吉字的 野、後田	社寺跡、散布地	河岸段丘面、 小起伏山地	縄文、弥生、古 代、中世、近世	11,12,15年、的野八幡宮、別吉御 寺跡	
YK38	トヨシキヤマツ 富吉山田	山之口町大字富吉字山 田、的野	散布地	丘陵地Ⅱ、河 岸段丘面	縄文、古代、中世		
YK39	トヨシキヤマツ 二本杉	山之口町大字富吉字二本 杉、山田	散布地	丘陵地Ⅱ、河 岸段丘面	縄文、弥生、近世		
YK40	ツシマグ 後田	山之口町大字富吉字後 田、二本杉	古墳、散布地	丘陵地Ⅱ、河岸 段丘面、成層シ ス台地と同時に の削剥面	縄文、弥生、古 代、中世、近世	18,20年 佐山定光之口村古墳1~49 號(うち3~45號は現存セイ) あり。昔が「新町原」と呼ば れていた。	
YK41	ツシマグ 角田	山之口町大字富吉字角 田、二本杉、並松	散布地	河岸段丘面、成 層シス台地と同 時期の削剥面	弥生、中世、近世		
YK42	ツシマグ 西焼	山之口町大字富吉字西 焼、我田	散布地	河岸段丘面、 沖積段丘面	縄文、弥生、古 代、中世、近世		
YK43	ツシマグ 富吉平	山之口町大字富吉字平、 黒土田	散布地	河岸段丘面、 沖積段丘面	縄文、弥生、古 代、中世、近世		
YK44	ツシマグ 新町	山之口町大字富吉字新 町、一島、平、前半田、黑 土田	散布地	河岸段丘面、開 拓段丘面	縄文、中世、近世		
YK45	フルショウ 古城	山之口町大字富吉字古 城、並松	城館跡、散布 地	河岸段丘面、或 層シス台地と同 時期の削剥面	縄文、中世、近世	11,39,40 年富吉遺跡、鶴ヶ城跡 あり	『全国遺跡地図』の下
YK46	ミヤシマヘダ 富吉前畠	山之口町大字富吉字前 畠	散布地	開拓裏状地面、 沖積段丘面	弥生、古代、中 世、近世		
YK47	ミヤシマヘダ 桜木	山之口町大字富吉字桜 木、上森川原、城下	散布地	開拓裏状地面	弥生、古代、中 世、近世		
YK48	ミヤシマヘダ 並原	山之口町大字富吉字並 原、向原	散布地	開拓裏状地面	近世		
YK49	ミヤシマヘダ 飯起第1	山之口町大字富吉字飯 起、大字花木字飯起	散布地	開拓裏状地面	古代、中世、近世		『全国遺跡地図』の平 I遺跡
YK50	ミヤシマヘダ 原園	山之口町大字富吉字角 田、大字花木字原園	散布地	河岸段丘面	古代、中世、近世	II遺跡	
YK51	ミヤシマヘダ 門田	山之口町大字花木字門田	社寺跡、散布 地	河岸段丘面	弥生、古代、近世		漸性寺跡あり
YK52	ミヤシマヘダ 園田	山之口町大字花木字園 田、門田、百地	散布地	河岸段丘面	弥生、古代、中 世、近世	11,全40年 II遺跡	『全国遺跡地図』の平 II遺跡
YK53	ミヤシマヘダ (侯の松尾)城主郡都跡	山之口町大字花木字門 田、油田、山ノ田	城館跡	小起伏山地	中世	7,11,15,39 40 年松尾城とも呼ばれる。『全 国遺跡地図』の佐世城跡	
YK54	ミヤシマヘダ 三段(松尾)城北東曲輪跡	山之口町大字花木字山 田、百地	城館跡	小起伏山地	縄文、中世	24	
YK55	ミヤシマヘダ 花木山ノ田	山之口町大字花木字山 田	散布地	河岸段丘面	縄文、中世、近世		
YK56	ミヤシマヘダ 津田	山之口町大字花木字津 田、諭訪前、園田	散布地	河岸段丘面	縄文、中世、近世		
YK57	ミヤシマヘダ 諭訪前	山之口町大字花木字諭 訪前	散布地	河岸段丘面	近世		
YK58	ミヤシマヘダ 永留	山之口町大字花木字水 留、柱松	散布地	河岸段丘面	弥生、中世		
YK59	ミヤシマヘダ 淡ヶ城跡	山之口町大字花木字又 木	城館跡	小起伏山地	中世	39,40	
YK60	ミヤシマヘダ 川西	山之口町大字花木字川 西	散布地	河岸段丘面、 沖積段丘面	近世		
YK61	ミヤシマヘダ 房野	山之口町大字花木字房 野、荒平	散布地	河岸段丘面	古代、中世、近世		
YK62	ミヤシマヘダ 金ヶ跡跡	山之口町大字花木字林 連ヶ谷	城館跡	中起伏山地	中世	39 城ヶ半と呼ばれる。	
YK63	ミヤシマヘダ 花木村前	山之口町大字花木字村 前	散布地	河岸段丘面	縄文		
YK64	ミヤシマヘダ 龟田	山之口町大字花木字龜 田、寺田	散布地	河岸段丘面	古代、近世		

表 都城市山之口地区埋蔵文化財包藏地 地名表（3）

番号	遺跡名	所在地	種別	立地	時代	文献	備考
YK65	ワタナベガイイチ 脇之田第1	山之口町大字花木字脇之田	散布地	河岸段丘面	弥生		
YK66	ワタナベガイイチ 脇之田第2	山之口町大字花木字脇之田	散布地	河岸段丘面	縄文、弥生、古代、中世、近世	13	県指定山之口村古墳6~10号墳(すべて瓦びき土手)川内古墳といふ呼ばれる。縄文土器多出土。
YK67	ワタナベ 窪坪	山之口町大字花木字深坪、野間口	散布地	河岸段丘面	弥生、中世		
YK68	ワタナベ 野間口	山之口町大字花木字野間口	散布地	河岸段丘面	弥生		
YK69	ハチヤマシロ 八幡領	山之口町大字花木字八幡領、大通	散布地	河岸段丘面、沖積段丘面	縄文、弥生、古代、中世、近世		完形の弥生土器(高砂)出土
YK70	ハセガワガイイチ 飯起第2	山之口町大字花木字飯起、楓松、当越	散布地	開析扇状地面	古代、中世、近世		
YK71	オカジヤマ 生子山	山之口町大字花木字王子山、向原、佐土原	城館跡、散布地	シラス台地面、成層シラス台地と同時に削られた斜面	古墳、中世、近世	18,30,40	王子被耕あり。南区公民館裏山から石器類出土。土器附出土。(地下式窓穴か)。県指定山之口村古墳5号墳(現存せず)。
YK72	ミセモトガイイチ 墨元第1	山之口町大字花木字墨元、佐土原	散布地	河岸段丘面	縄文、弥生、古代、中世、近世		磨製石斧出土
YK73	ミセモトガイイチ 金龜第1	山之口町大字花木字金龜	散布地	開析扇状地面	縄文		平成18年度試掘調査により発見
YK74	ミセモトガイイチ 金龜第2	山之口町大字花木字金龜、藤別府	散布地	開析扇状地面	縄文		平成18年度試掘調査により発見
YK75	ミセモトガイイチ 脇別府	山之口町大字花木字脇別府	散布地	開析扇状地面	弥生		
YK76	ミセモトガイイチ 墨元212	山之口町大字花木字墨元、池平	散布地	河岸段丘面	縄文、弥生		
YK77	ハセガワガイイチ 花木池平	山之口町大字花木字池平	散布地	河岸段丘面	縄文、古代		
YK78	ヤマノリサムコバハ 山之口向原	山之口町大字山之口向原	散布地	開析扇状地面	中世、近世		
YK79	シンドウグ 下平	山之口町大字山之口下平	散布地	開析扇状地面	近世		
YK80	ナカツ 中間	山之口町大字山之口中間、向原、森木、浜原、鶴井ヶ羅	散布地	開析扇状地面	縄文、弥生、古代、中世、近世		
YK81	イバハツ 一本松	山之口町大字山之口字一本松	散布地	開析扇状地面	中世、近世		
YK82	ヤマノリサムコ 山之口中尾	山之口町大字山之口字中尾	城館跡、散布地	開析扇状地面	縄文、中世、近世	34	田原陣跡あり
YK83	タハシ 田原	山之口町大字山之口字田原、川南	散布地	開析扇状地面	縄文、古代、中世、近世		
YK84	タカウチ 竹内	山之口町大字山之口字竹内	散布地	沖積段丘面	近世		
YK85	タハシハツエ 田原ノ上	山之口町大字山之口字田原ノ上	城館跡、散布地	開析扇状地面	中世、近世	34	出原陣跡あり
YK86	シンドウ 新山	山之口町大字山之口字新山	散布地	開析扇状地面	近世		
YK87	ミセモト 宮ノ下	山之口町大字山之口字宮ノ下	散布地	開析扇状地面	近世		
YK88	ヤマノリ 屋舎	山之口町大字山之口字屋舎、木本松、茶屋屋	散布地	開析扇状地面	弥生、中世、近世		
YK89	ブジョ 蘿ノ木	山之口町大字山之口字蘿ノ木	散布地	沖積段丘面	古代、近世		
YK90	ヤマノリサムコ 山之口籠	山之口町大字山之口字籠	集落跡、社寺	シラス台地面、開析扇状地面	中世、近世	15	鹿児島市直轄領鹿集落跡、十輪寺跡あり
YK91	ヤマノリサムコ 山之口前田	山之口町大字山之口字前田	散布地	開析扇状地面	近世		
YK92	ウシダ 宇都谷	山之口町大字山之口字宇都谷、田野堂、大字花木字浦田	城館跡	小起伏山地	中世	34	後陣跡、「陣之丘」とも呼ばれる。
YK93	ミセモトガイイチ 佐土屋敷第1	山之口町大字山之口字佐土屋敷	社寺跡、散布地	河岸段丘面	縄文、古代、中世、近世	15	福王寺跡あり。磨製石斧出土。
YK94	ミセモトガイイチ 佐土屋敷第2	山之口町大字山之口字佐土屋敷	城館跡	シラス台地面	中世	34	「鍋ヶ野」佐渡屋敷
YK95	タハシ 立野	山之口町大字山之口字立野	散布地	河岸段丘面	縄文、古代、中世、近世		
YK96	ヤマノリ 星形ヶ野	山之口町大字山之口字星形ヶ野	散布地	シラス台地面	縄文、弥生、古代、中世、近世		
YK97	ヤマノリ 栗ノ木	山之口町大字山之口字栗ノ木	散布地	河岸段丘面	縄文		

表 都城市山之口地区埋蔵文化財包蔵地 地名表 (4)

番号	遺跡名	所在地	種別	立地	時代	文献	備考
YK98	サツヤク 笠野	山之口町大字山之口字笠野	散布地	河岸段丘面	近世		
YK99	ヒツヅラ 妻作	山之口町大字山之口字美作	散布地	河岸段丘面	縄文、近世		
YK100	マツタツヤガシバヘル 山之口東原	山之口町大字山之口字東原	散布地	シラス台地面	近世		
YK101	ナガミ 赤野	山之口町大字山之口字赤野	散布地	シラス台地面	近世		山ノ神祠あり
YK102	ヒゲイ 早田	山之口町大字山之口字早田	散布地	シラス台地面	縄文、弥生		
YK103	ハヌキ 場貢	山之口町大字山之口字場貢	散布地	シラス台地面	近世		
YK104	カモシカラジイロ 山之口丸丸	山之口町大字山之口字丸丸	散布地	シラス台地面	縄文、中世、近世		島津惣天工場跡あり
YK105	マツタツヤガシバノイチ 山之口中原第1	山之口町大字山之口字中原	散布地	シラス台地面	縄文		
YK106	マツタツヤガシバノイニ 山之口中原第2	山之口町大字山之口字中原	散布地	シラス台地面	古代		
YK107	ブタナ 古内	山之口町大字山之口字古内、古内前田	散布地	河岸段丘面	中世、近世		
YK108	マツタツヤガシバ 山之口樺松	山之口町大字山之口字樺松	散布地	河岸段丘面	縄文、古代、中世、近世		
YK109	チハシノ瀬 ノ瀬	山之口町大字山之口字ノ瀬	散布地	河岸段丘面	古代、中世、近世	9.17,28, 30	一ノ瀬番所(山之口 番所)跡
YK110	マツタツヤガシバウタ 山之口城跡	山之口町大字山之口字大門	城館跡	シラス台地面、河岸段丘面	縄文、弥生、古代、中世、近世	15.23,39, 40	亀鶴(土城)とも呼ばれる。社神社、修善寺跡
YK111	ダイイ 大門	山之口町大字山之口字大門	散布地	シラス台地面	弥生、近世	12.18	
YK112	カギ 野上	山之口町大字山之口字野上、城ヶ迫	散布地	河岸段丘面	縄文、古代、中世、近世		
YK113	セゼン オケ野	山之口町大字山之口字オケ野	散布地	河岸段丘面	縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世		完形弥生土器、古代土師器山上
YK114	シゼン 小椎ヶ野	山之口町大字山之口字小椎ヶ野	散布地	河岸段丘面	縄文、古代、中世、近世		
YK115	ナカヤナ 中巣	山之口町大字山之口字中巣	散布地	河岸段丘面	縄文、近世		
YK116	ヒナギ 日当瀬	山之口町大字山之口字日当瀬	散布地	河岸段丘面	近世	4.9.17,30	日当瀬番所跡
YK117	カタガミ 長野第1	山之口町大字山之口字上長野	散布地	河岸段丘面	縄文、弥生、古代、中世		
YK118	カタガミ 上長野第2	山之口町大字山之口字上長野	散布地	河岸段丘面	縄文		
YK119	カタガミ 上長野第3	山之口町大字山之口字上長野	散布地	河岸段丘面	弥生		
YK120	ナシ 成ル	山之口町大字山之口字成ル	散布地	河岸段丘面	近世		
YK121	ナシ 奈留	山之口町大字山之口字奈留	散布地	河岸段丘面	近世		
YK122	ナカヤナ 中川内	山之口町大字山之口字中川内	散布地	河岸段丘面		9.17	中川内番所跡
YK123	カタガミ 雅楽野第1	山之口町大字山之口字雅楽野	散布地	河岸段丘面	古代、中世		
YK124	カタガミ 雅楽野第2	山之口町大字山之口字雅楽野	散布地	シラス台地面	弥生		
YK125	カタガミ 宇都頭	山之口町大字山之口字宇都頭、鶴間田	散布地	河岸段丘面	縄文、中世		
YK126	ヒナツ 無松	山之口町大字山之口字無松	散布地・墓	河岸段丘面	近世		
YK127	ナガツ 洗合	山之口町大字山之口字洗合	散布地	シラス台地面	近世		
YK128	ナガツ 字名目	山之口町大字山之口字字名目	散布地	河岸段丘面	近世	9.17	飛松番所跡
<b>旧高城町との境界に所在する遺跡</b>							
番号	遺跡名	所在地	種別	立地	時代	文献	備考
TJ1019	ヒツヅラ 上角	山之口町大字高吉字上角	散布地	開折扇状地面	縄文、弥生、古代、中世、近世		高城町1019十角遺跡の範囲変更
TJ1021	カオハグニ 人原第2	山之口町大字高吉字後原、京原	散布地	開折扇状地面	弥生		高城町1021人原第2遺跡の範囲変更
TJ2007	カツマツ 樺松	山之口町大字木字樺松、後原、向原	散布地	開折扇状地面	中世、近世		高城町2007樺松遺跡の範囲変更
TJ2009	カツマツ 佐土原人道	山之口町大字木字錢龜、鷹原、后原	散布地	開折扇状地面	弥生		高城町2009佐土原大道遺跡の範囲変更
TJ2010	カツマツ 一本松	山之口町大字木字井ヶ堀、堀木	散布地	開折扇状地面	縄文、近世		高城町2010一本松遺跡の範囲変更

## 第4章 関連文献目録

(執筆者・編者の五十音順)

1. 石川恒太郎 1968『郷土考古学叢書4 宮崎県の考古学』吉川弘文館
2. 喜田貞古 1930『日向国史』(1943再刊)『日向国史・古代史』
3. 視所著 1987『山之口正近探訪と円野神社の阿比留文字』『季刊南九州文化』第30号 南九州文化研究会
4. 板元文朗 1985『日向國山之口日当漸入穴物語』『季刊南九州文化』第24号 南九州文化研究会
5. 高城町教育委員会 1998『高城町文化財調査報告書第7集』『町内遺跡詳細分布調査報告書』
6. 竹内圭三編 1986『角川日本地名辞典45 宮崎県』角川書店
7. 立山徳次 1969『都城盆地内主墳域』
8. 藤岡謙二郎 1973『古代日向の地域的中心と交通路』『地理学評論』第46巻第10号
9. 「ふるさとのみち宮崎の街道」編集委員会 2006『ふるさとのみち 宮崎の街道』宮崎県教職員互助会
10. ふるさと「やまとくち」再発見実行委員会・山之口町教育委員会編 2002『山之口町の文化財』
11. 文化庁文化財保護部編 1977『全国遺跡地図 宮崎県』 文化庁
12. 平凡社地方資料センター編 1997『日本歴史地名大系第46巻 宮崎県の地名』平凡社
13. 三股町教育委員会 1996『三股町文化財報告書第1集』『三股町遺跡詳細分布調査報告書』
14. 都城市教育委員会山之口生涯学者課編 2006『近世山之口町郷土史料』
15. 宮崎県 1931『宮崎県史調査第8輯 北諸県郡及都城市』
16. 宮崎県 1998『宮崎県史 通史編 古代2』
17. 宮崎県教育庁文化課 1979『宮崎県歴史の遺跡調査報告書 宮崎街道』 宮崎県教育委員会
18. 宮崎県教育庁文化財課編 2008『宮崎県指定古墳等再編活用事業報告書1』 宮崎県教育委員会
19. 宮崎県高等学校社会科研究会歴史部会 1990『新全周歴史散歩シリーズ45 新版宮崎県の歴史散歩』山川出版社
20. 宮崎県農政水産部農業振興課 1980『都城・北諸県地域 土地分類基本調査 都城』国土調査 宮崎県
21. 宮崎県農政水産部農業振興課 1981『小林・西諸県地域 土地分類基本調査 野尻』国土調査 宮崎県
22. 宮崎県文献史料研究会 2004『宮崎県文献史料研究会叢書1 古今山之口記録』 龍脈社
23. 村川修三 1987『山之口城』『図説 中世城郭事典』3 新人物往来社
24. 棚田宏一編 2004『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第97集』『三俣城北東曲輪跡 国营都城盆地農業水利事業 前方ファームボンド建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 宮崎県埋蔵文化財センター
25. 山下博明 1985『宮崎県山之口地区史跡調査報告書』『季刊南九州文化』第23号 南九州文化研究会
26. 山下博明 1985『日向山之口「捕多山脊門院彦彦守跡」探査』『季刊南九州文化』第24号 南九州文化研究会
27. 山下博明 1985『日向國三俣院山之口の関所』『季刊南九州文化』第25号 南九州文化研究会
28. 山下博明 1986『日向國三俣院山之口の関所(II)』『季刊南九州文化』第26号 南九州文化研究会
29. 山下博明 1986『日向國三俣院山之口の関所(III)』『季刊南九州文化』第27号 南九州文化研究会
30. 山下博明 1986『日向國三俣院山之口の関所(IV)』『季刊南九州文化』第28号 南九州文化研究会
31. 山下博明 1986『日向國三俣院山之口の関所(V)』『季刊南九州文化』第29号 南九州文化研究会
32. 山下博明 1987『日向國三俣院山之口の関所(VI)』『季刊南九州文化』第31号 南九州文化研究会
33. 山下博明 1987『日向國三俣院山之口の関所(VII)』『季刊南九州文化』第32号 南九州文化研究会
34. 山下博明 1987『日向國三俣院山之口の関所(VIII)最終回』『季刊南九州文化』第33号 南九州文化研究会
35. 山下博明 1988『日向國三俣院山之口城(亀鶴三石城)』『季刊南九州文化』第34号 南九州文化研究会
36. 山下博明 1989『日向國三俣院走瀬神社』『季刊南九州文化』第41号 南九州文化研究会
37. 山之口町史編さん委員会編 1974『山之口町史』 山之口町
38. 山之口町史編さん委員会編 2005『山之口町史』 山之口町
39. 吉木正典編 1998『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書I 地名表・分布地図編』 宮崎県教育委員会
40. 吉木正典編 1999『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書II 詳説編』 宮崎県教育委員会

写真1 主な遺跡の現況写真



YK29：箱島遺跡（南東から）



YK40：後田遺跡（東から）



YK39：二本杉遺跡（南から）



YK66：脇之田第2遺跡(熊定山口村古墳~11号墳跡)



YK95：立野遺跡（北東から）



YK109：一ノ渡遺跡（東から）

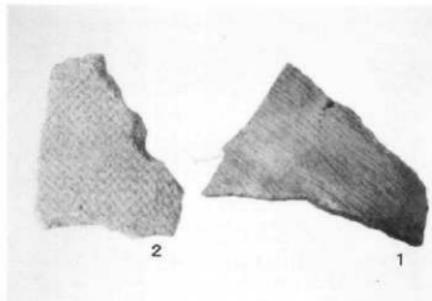


YK110：山之口城跡（東から）

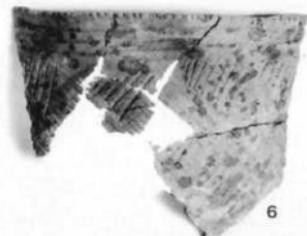


YK117：上長野第1遺跡（南から）

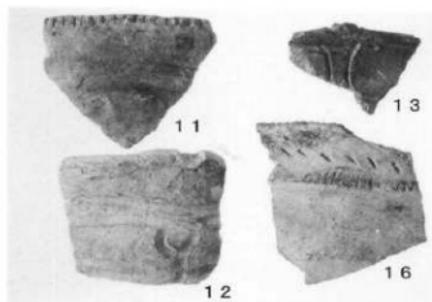
写真2 主な採集遺物の写真



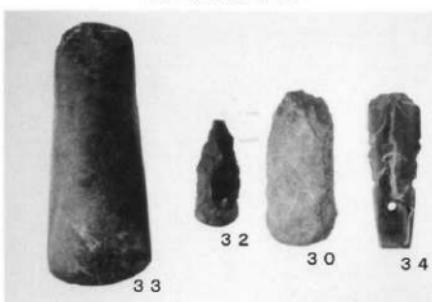
縄文時代早期の土器



縄文時代前期の土器



縄文時代後期の土器



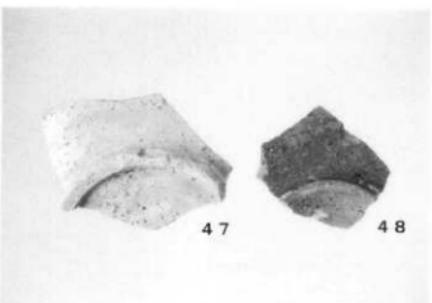
石 器



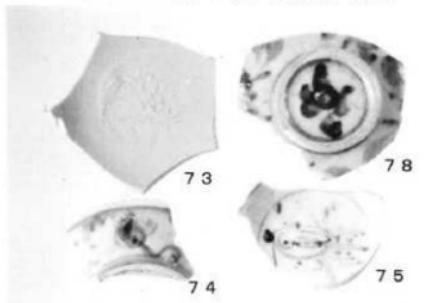
弥生土器



古墳時代の土師器（上段）と須恵器（下段）



綠釉陶器



貿易陶磁器（青磁と青花）

## 報告書抄録

ふりがな	みやこのじょうしやまのくちちくいせきしうさいぶんぶちょうさほうこくしょ				
書名	都城市山之口地区遺跡詳細分布調査報告書				
シリーズ名	都城市文化財調査報告書				
シリーズ番号	第94集				
編集者名	森畑光博				
編集機関	都城市教育委員会事務局文化財課				
所在地	宮崎県都城市菖蒲原町19-1				
発行年月	2009年3月				
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積
都城市山之口地区 区内遺跡	都城市 山之口町内	—	—	2008.5— 2009.3	—
種別	主な時代	主な遺構	主な採集遺物		
散布地	縄文～近世	—	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・国産陶器・貿易陶磁器・石斧・石鏃		

都城市文化財調査報告書第94集

### 都城市山之口地区遺跡詳細分布調査報告書 (旧北諸県郡山之口町)

2009年3月 発行

編集・発行 都城市教育委員会事務局文化財課

宮崎県都城市菖蒲原町19-1

郵便番号885-0034 電話番号(0986)23-9547

印刷・製本 株式会社 東洋テクネット

宮崎県都城市北原町23街区11号

郵便番号885-0024 電話番号 0986 (23) 7173

## 附図 都城市山之口地区遺跡詳細分布図

